

令和4年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立 植水 中学校）

学校番号 238

【様式】

目指す学校像		わかる授業 明るい学級 挨拶と歌声響く学校	
重点目標	1	指導法の工夫・改善を通し、学力の向上を図る	※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。
	2	健康教育（学校保健・学校安全・防災教育等）の充実を図る	
	3	地域と連携した教育活動を推進する	
	4	基礎体力と機動力のある職員組織を構築する	

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価
年 度 目 標								実施日令和5年2月9日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査の結果は、国語の読解力及び数学全般において、理解力についての課題が見られた。 ○全国学力・学習状況調査における「数学の勉強は好きですか」の問いに対して肯定的な回答は約40%であった。 ○学校評価生徒アンケートにおいて、数学の問題に取り組む「朝学習を通して学習への関心が高まったか」の問いに対して、肯定的な意見が約75%であった。 (課題) ○全国学力・学習状況調査において、特に数学の見方や考え方の分野で無答率が多く、活用する基礎学力の定着に課題がある。 ○数学を含めた学習への意識が高まっておらず、生徒の興味・関心を育てる必要がある。	・朝学習における数学の学習活動の改善 ・数学の授業における習熟度別授業等、授業の工夫改善	①朝学習において週に1度、数学のスタディ・サプリを活用し、生徒個々の理解度に合わせた学習を進める。 ②スタディ・サプリの動画を活用し、自学自習の習慣を身に付けるとともに、教員が進捗状況と理解度を確認する。	①朝学習における生徒個々のスタディ・サプリの取組進捗状況が予定通り進行しているか。 ②学校評価生徒アンケート「（数学の問題に取り組む）朝学習を通して学習への関心が高まったか」の問いに対して、肯定的な意見が昨年度より増加したか。	①通年を通して、基本的に毎週水曜日、数学科の教員が生徒に問題を配信し、生徒に朝学習で取り組ませることができた。 ②全体的に見ると肯定的な意見は昨年度と比較し、ほぼ同じだったが、学年が上がるほど意識は高まっており、3年では市学力検査の全体との平均差が約5点分数値が上がった。	A	本年度は教員が配信し、生徒が取り組むという流れがメインとなり、活用したことが主体となった。次年度については、スタディサプリの機能や利用方法を研究し、1・2年生の意識が上がり、学力向上に結び付くよう、更なる活用について考えていく必要がある。	朝学習の取組を数学だけに限らず、G・S等、他教科にも広げてみてはどうか。 中学校には、社会に出てから必要な学習や多様性等の指導について期待している。
2	(現状) ○学校評価生徒アンケート「学校での生活は毎日楽しく充実していますか」「友達と仲良くしようとしていますか」の問いに対して肯定的な意見が95%を超えている。 ○学校評価生徒・保護者アンケートのいじめ撲滅の項目については、肯定的意見が他の項目に比べやや低い。 ○防災教育の研修指定を受け、災害に対する意識が高くなった。 (課題) ○学校へ登校できない生徒は少ないものの、小学校から固定されている人間関係が悪影響にならないよう継続的な指導が必要である。 ○防災に関する意識をさらに高め、地域に貢献できる人材を育成する必要がある。	・きめ細やかな指導と生徒指導・教育相談体制の充実 ・防災教育におけるこれまでの取組の集約	①生徒の些細な情報でも耳を傾け、迅速な対応をする。 ②報告・連絡・相談・見届けを徹底する体制を強化し、組織的に対応する。	①学校評価生徒アンケート「困ったときなど、必要に応じて先生に相談できるか」の問いに対して、肯定的な意見が昨年度より増加したか。 ②組織的な生徒指導・教育相談が機能しているか。	①アンケートの結果は昨年度と比較し、ほぼ横ばいだったが、教員が生徒とのコミュニケーションを意識して取ったことで、生徒と良好な関係を築くことができた。 ②生徒指導教育相談委員会を定期的に開催し、情報を細かく共有した。指導において組織的に対応するとともに、管理職に報告・連絡・相談・見届けを丁寧に行った。	A	生徒と教員のコミュニケーションは取れているものの、生徒が教員に相談できる関係のさらなる構築が可能と思われる。今後は情報共有の徹底と、教育相談等の接し方などの研修会開催などより信頼関係を築くことができるよう学校全体でも取り組んでいく。	防災教育についてはよい流れで取組を行っていた。 近隣の地区の学校とも連携を図り、さらに防災教育の取組を進めてほしい。
3	(現状) ○昨年度植水小学校と合同の学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、目指す生徒像について熟考を重ねた。 ○本年度の学校運営協議会で、協議会の役割を確認し、連携方法について確認した。 (課題) ○本年度実施校となり、保護者等への周知・理解を広めていく必要がある。	・目指す生徒像の姿を体現するための地域連携行事の推進 ・地域連携活動や学校運営協議会の活動についての広報	①「輝き事業」や「読書会」等、大宮南高校や大宮光陵高校と連携した取組を昨年度から継続するとともに、地域の特性を意識し、地域と連携した取組を実施し、生徒の地域への関わりに対する意識を高める。 ①学校だよりやホームページ等で活動の様子を紹介し、情報を広く発信するとともに、学校の活動を地域に公開することで、教育活動を保護者・地域と情報共有する。	①学校自己評価アンケートの生徒と地域との関わりについての項目において、肯定的な意見が80%以上となったか。 ①学校評価保護者アンケート「各たより等により生徒の学習・生活の様子をわかりやすく知らせている」の問いに対して、肯定的な意見が昨年度より増加したか。	①大宮南高校や大宮光陵高校と連携を図り、地域清掃活動や読書会を本年度も実施した。青少年育成会や社会福祉協議会主催の催し等に参加し、地域との関りを深めた。本年度はコロナのため実施できなかったが防災関係における地域連携も実施したい。 ②新たにホームページに「学校の様子」のコーナーを作成、月に3回程度生徒の活動の様子を記事にして掲載した。しかし、周知があまりできていなかったためか、アンケートの結果は7%ほど減少した。	A	近隣高校との連携は生徒や近隣の方の評判もよく、今後も継続して取り組んでいく。また、地域団体から行事参加の声をかけていただき、生徒の活躍する場を提供していただいた。今後も連携を図っていきたい。	with コロナの状況でも、地域の行事に参加し、学校と地域がつながることができた。今後もぜひ取り組んでほしい。 保護者は子どもの様子を見たいので、土曜授業のお知らせ等安心メール等を活用して、こまめにアナウンスがほしい。
4	(現状) ○服務についての意識は比較的高く、業務に協力して取り組む姿勢があり、互いにフォローし合う職場環境が比較的整っている。 ○ICTに精通した職員が少なく、エバンジェリストに負担がかかっている。 (課題) ○教員の年齢構成が二極化しており、若手教員及びミドルリーダーの育成が急務である。 ○授業や業務において、効率的なICTの活用方法に課題がある。 ○小規模校における校務分掌について、業務改善が図れるよう見直しをする必要がある。	・教員としての自覚を持った行動と働きやすい職場環境の改善	①教員一人ひとりが、勤務時間外在校時間だけにとらわれず、必要な業務を精選する。 ②教員間における協力体制等を含めた服務研修を学期に1回実施し、協力体制のさらなる強化と若手教員育成の環境を整える。	①全職員の勤務時間平均値が昨年度から減少しているか。 ②学校評価教職員アンケート「植水中学校は働きがいがあり、働きやすい職場か」の問いに対して、肯定的な意見が昨年度より増加したか。	①ToDoリストを活用する教員も増え、年度前半は意識も高まり、時間外在校時間は減少傾向にあったが、後半は行事や進路指導のため、やや増加傾向となり、年間ではほぼ横ばいとなった。 ②教員間のコミュニケーションを図ることができ、教員からは職場環境がよくなったとの意見も聞かれた。学校評価教職員アンケートでは、肯定的な意見がアップし、90%になった。 若手教員を中心にお互いに授業スキルについて意見交換をするなど、協力体制が構築されてきた。また、服務等についても意識が高く、よい職場環境も構築されている。	A	教職員の働き方改革に対する意識は着実に上がっているものの、時間外在校時間の減少にはまだ至っていない。今後も、学校として効率よく業務が進められる手段を考え、校務分掌等に活かしていく。 職場環境について、教職員が働きやすく、業務を効率的に行うことができる環境を更に整えていく必要がある。 倫理活率委員会を更に活用し、教職員間でのハラスメント等がない人間関係を継続していく。	先生方は忙しそうに見える。小学校では保護者がボランティアで手伝いをしている。後押しをしたい。